

## 気持ちのこもったオールで 五輪を目指し明日へと漕ぎ出せ

「レースの後には息ができないほど体力が必要な競技だけど、チームのためにクルー全員が団結して一生懸命になれることが魅力です」と目を輝かせるのは、ボート競技の女子かじ付きクオドルブルの



日隈 さつきさん  
Hinokuma Satsuki

〔芝原区〕

ひのくま さつき / 学附高2年。ボート競技かじ付きクオドルブルの部でインターハイに出場し、2020年東京オリンピック育成指定選手に選出。

日隈さつき選手（芝原区・熊本学附高2年）。

かじ付きクオドルブルとは、横断面が半円状の細長いボートを2つのオールを持った4人の漕手と舵手の5人が一定の距離を漕ぎ順位を競う競技。

日隈選手は、5月のインターハイ地区予選に出場し、1,000メートルのコースを3分36秒36のタイムで漕ぎ、見事優勝。同高のエースとして活躍した。

小学校ではミニバスケットボール、中学校ではソフトテニスとスポーツに汗を流した日隈選手。高校1年の春に先輩の勧めで入部した同高ボート部でクオドルブルに出会った。

た。「初めてボートに乗せてもらったときの風がとても気持ちよくて、すぐに練習に参加しました」と笑顔で振り返る。すぐに頭角を現してメンバー入りし、ボートの先頭でクルーのペースを作る重要なポジションである「ストローク」を任されている。

「練習をすればするほど上手になれるし、クルーみんなで練習をがんばることで気持ちがいっつになります」と日隈選手。「クルー全員の息が合わない」と上手く進まない競技だけど、だからこそ、勝ったときの達成感が大きいところが好きです」と微笑む。

日隈選手は、次代のメダル候補アスリートの育成を目的とした県教育委員会が指定する「2020年東京オリンピック育成指定選手」にも選出され、今後の活躍が大いに期待される。「メダルを目指せる選手には、まだまだ遠く及びません。今は目の前にあるインターハイや国体を1位タイムで通過して優勝する目標を目指し、クルーみんなとがんばります」と意気込む。